

数学科

学年	学習状況と課題分析	具体的な改善策
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒授業アンケートより肯定的な回答の割合が「話し合い活動やグループ活動の場面がある」について 90.5%だが、「自分の意見や考えを発表した」については 62.1%となっており、ギャップがある。 ・定期考査返却後に類題のテストを行うことにより、基礎学力の定着を図ることができた。また小单元ごとに单元テスト及び問題集の回収を行うことにより、家庭学習における問題集への取組が習慣化した。定期テストの振り返りや单元テストにより支援が必要となる生徒を特定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の話し合い活動のなかで、教員の声掛けなどの働きかけにより全員が相互に発言し、話し合い活動によって学力の向上を図ることができるようにする。 ・自身での家庭学習などによる振り返りが困難な生徒や、单元テスト等で基準点に到達しなかった生徒に対して放課後学習教室等を活用した支援を行う。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項が確認できていなかったり、苦手意識をもっていたりする生徒への対応が必要である。 ・例題を確認しながら計算問題を解くことはできるが、出題の仕方が変わると同じ技能を使う問題でもできない生徒もいる。 ・個々の学力差が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別の特性を生かし、それぞれのコースの生徒の実態に応じて演習時間の確保をし、反復練習をしながら生徒のつまずきを見付けて指導する。 ・デジタル教材を活用して、一次関数の動点、図形等の問題を可視化して、理解しやすくする。 ・单元テストや定期考査リターンズ等で基準点に到達しなかった生徒に対して放課後学習教室等を活用した支援を行う。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や提出物などの課題に真剣に取り組む姿勢がある。また、授業の話し合い活動では友達と相談し、自分たちの考えをまとめようとしている。 ・数学への苦手意識をもっている生徒も多く、家庭で復習する時間が十分に取れていない。 ・例題などを参考に問題を解くことはできるが、出題の仕方が変わると解けなくなる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別の特性を生かし、それぞれのコースの生徒の実態に応じて演習時間の確保をし、反復練習をしながら生徒のつまずきを見付けて指導する。 ・関数や図形の单元では、デジタル教科書やグラフ作成ソフトを利用して可視化することで学力の定着を図る。 ・自ら考え、課題解決に取り組むことができるような課題を授業の中で設定し、話し合い活動の時間を設ける。 ・单元テストや定期考査リターンズ等で基準点に到達しなかった生徒に対して放課後学習教室等を活用した支援を行う。